

# 第5回 高校生ロボット アメリカンフットボール全国大会

## ROBOT AMERICAN FOOTBALL

### 香川県立三豊工業高等学校が連覇!



前大会に引き続き、「MITOYO」チーム(香川県立三豊工業高等学校)がその強さを見せた。今大会では、ルールの一部が見直された。中でも特に大きなものが、得点されたチームのキックオフによる試合の再開だ。ともすれば点の取り合いになりやすい新ルールだったが、「MITOYO」は守備力を強化することで制した。豊富な練習のたまものであることは言うまでもない。  
「ロボマガ」記者・城井田 勝仁

## 前大会の優勝と準優勝のチームが 同じグループとなってしまった予選リーグ!

ロボットアメリカンフットボール全国大会は、今大会で第5回となる。当初はロボット相撲の団体戦のようにしか見えなかったロボットアメリカンフットボール(以下「ロボフト」と略す)だったが、回を重ねるごとにチームプレイが洗練され、今では上位チームを中心に高度なチーム戦術が見られる。

ロボフトには、予選リーグと決勝トーナメントがあり、定められたグループの中から、総当たり戦の結果による上位2チームが決勝トーナメントへと進む。各グループへの振り分けは抽選で行われるのだが、今大会ではなんと、前大会の優勝チームである「MITOYO」(香川県立三豊工業高等学校)と、準優勝チームである「チーム四

中工」(三重県立四日市中央工業高等学校)が同じ予選Aグループとなった。もちろん、前大会の上位チームであるからといっても、前年に中心となっていた3年生の抜けた新チームなので、同じように強いとは限らないのだが、両チームとも順当に勝ち上がる強さを見せた。特に「MITOYO」の強さは、前大会を彷彿とさせるものであり、他のチームの脅威となった。

ロボフトの基本ルールは、アメフトに準じたものである。得点方法は簡略化されており、サッカーのそれに近いが、ボールを蹴り込むのではなく、ゴールエリアまでボールを運んでいって加点する。ボールを持たない相手へのタックルも許されており、ポイントゲッターの進路を切り開くス

ーパーの存在は欠かせない。「MITOYO」では、この役割分担が明確にされており、両者ともがスペシャリストだったのだ。



写真1 アメフトなので、ボールは蹴り込むのではなく、抱えて走る。



写真2 そのまま相手ゴールエリアまで走り込めれば、得点になる。



写真3 前大会優勝の「MITOYO」と、同準優勝の「チーム四中工」が、くしくも同じAグループで予選リーグを戦うことになった。



写真4 大会初のゴールドをチームカラーとした「TOMAKO」(北海道苫小牧工業高等学校)は健闘するものの、惜しくも予選Dグループ3位で決勝トーナメント進出を逃す。



写真5 ボールが場外へ出ると、セットプレイで再開されることになる。ボールを得たチームにとっては、最高の得点チャンスだ。